

別記

(書式1)【候補者用】

<p>① 立候補者の 姓名と所属</p>	<p>姓名： 村山 留美子 所属： 神戸大学人間発達環境学研究科人間環境学専攻</p>
<p>② 立候補の理由と 抱負 (400 字程度)</p>	<p>2011 年の原子力発電所事故や近年の新興感染症の流行などを通じ、人々がリスクやその対応の困難を身近に感じざるを得ない状況が続く中で、リスクに関わるコミュニケーションや意思決定の難しさが広く議論され始めている。リスクへの対応は、科学的であることは重要だが、人の感覚や経験も無視できない要素であり、社会全体の認知や体制を考慮した包括的な議論が不可欠である。多分野の専門家を擁する日本リスク学会は、この複雑なリスクの課題に対し、分野を横断して多角的に取り組み、解決に繋げる理想的なプラットフォームをもっており、この面で社会を牽引する使命があると考え。この使命に何らかの貢献ができればと考え、以下のような抱負を持って、理事へ立候補する。</p> <p>1.学校教育が取り組み始めているリスク教育体系の整備、特に義務教育を含む若年層への教育に対して本学会の立場を明確にし、指導的立場を確立したい。</p> <p>2. 複雑なリスク対応とそれに資するコミュニケーションの実施に関わる問題解決について、多様な専門知識を持つ学会員と分野横断的な協力体制を作り、リスクについて多くの市民や他分野の専門家から必要とされる学会にしたい。</p>
<p>③ 本学会における 活動歴</p>	<p>内山巖雄元学会長（第8期）のサポートを行う形で、長年に亘り本学会に携わってきた。本学会の編集委員会委員を務めている他、第10回研究発表会以降、発表者としては20編程度、連名では30編程度の発表を本学会研究発表会にて行っている。</p>
<p>④ 研究歴・職歴等 (100 字以内)</p>	<p>(研究歴)</p> <p>大気環境中の化学物質の生体影響や有機化合物に関わるモニタリング手法の検討を行う一方で、平成8年のベンゼンの環境基準設定に伴い、発がんリスクに関わる認知研究に着手し、以降リスク認知研究を主に行っている。</p> <p>(略歴)</p> <p>1995年4月：国立公衆衛生院労働衛生学部職業性疾患室研究員 2002年4月：京都大学大学院工学研究科助手 2007年4月：京都大学大学院工学研究科助教 2013年4月：神戸大学大学院人間発達環境学研究科講師 2016年10月：神戸大学大学院人間発達環境学研究科准教授</p>

(書式2)【推薦者用】

① 推薦する候補者名	村山 留美子
② 推薦者の姓名と所属	米田 稔 京都大学環境安全保健機構
③ 推薦理由 (400字程度)	候補者は京都大学教員時には大気汚染物質の動態や人体曝露評価、細胞への取り込みや生理学的影響など、マクロなスケールからミクロなスケールに至る工学的なリスク学研究を実施する一方で、環境汚染物質などに関するリスク認知構造の心理学的、社会学的解析なども実施しており、環境汚染物質等のリスクに対して、様々な観点からのアプローチを実施する高い能力を示してきた。神戸大学に移られてからは、より文理融合的なリスク認知構造の解析などにフォーカスしながら広い視野からのリスク学研究を実践され、2008年に当学会奨励賞を受賞されたことからわかるように、当学会年次大会などでも多くの質の高い発表を行ってこられた。また、当学会編集委員としても活動されるなど、これまでの当学会への貢献は顕著である。以上のように候補者は、リスク学研究の実績、リスク学研究の社会実装において求められるトランスバウンダリーな能力、学会への貢献度などから判断し、本学会理事として適任であると考え、ここに強く候補者を推薦する。